



文理融合型地域振興研究教育プロジェクト
「海と希望の学校 in 三陸」

(経緯)

岩手県大槌町に位置する国際沿岸海洋研究センターは、東日本大震災以降、大津波による沿岸生態系の攪乱と再生過程の把握および水産業復興支援のため、時限付き研究室「資源再生分野」を立ち上げ、東北マリンサイエンス拠点形成事業を中心として精力的な研究を行ってきた。一方、震災から5年を経た2016年頃より、沿岸生態系モニタリングの長期的展開とともに水産業関係者以外の住民や、震災復興の先を見据えた地域振興の重要性を認識するに至っている。そこで、被災地に立地することを重視し、これまでの海洋科学研究機関としての役割に加え、東京大学社会科学研究所と協働して地域振興の核となる新たな方向性を打ち出すこととした。

(プロジェクトの概要)

著しい過疎化・高齢化に加え、東日本大震災による壊滅的な被害を受けた三陸沿岸地域は、様々な形で復興と将来の活路を海に求めている。一方、三陸のリアス海岸に形成される大小様々な湾は、それぞれが独自の海洋科学的特性とそれに伴う文化、風習、産業を有することが想定されるにもかかわらず、その実態はほとんど知られていない。そこで、本事業では総延長約600kmに及ぶ三陸海岸の海洋研究を推進し、湾ごとに異なる海洋科学的多様性の実態と人文社会科学的な関係性を明らかにする。これら調査と並行して、地先の海の持つ可能性とそれを生かしたローカルアイデンティティの再構築に関する議論を喚起することにより、地域の復興・振興の希望となる次世代の人材育成を目指す。

(組織体制)

主担当：沿岸海洋社会科学分野

准教授：公募予定

特任研究員：吉村健司（民俗学）、福岡拓也（海洋生態学）

学術支援職員：中本健太

(期待される活動)

1. リアス海岸の比較研究を視野に入れた新たな沿岸海洋学を展開する。
2. 海洋環境と沿岸社会の関係性（産業構造、地域文化）を明らかにするための文理融合型研究アプローチを創出する。
3. 得られた科学的知見に基づき、地域住民へ“地先の海の誇り”を提供する。
4. 社会科学研究所と協働して、海をベースとしたローカルアイデンティティの再構築による地域再生のための基礎を構築する。